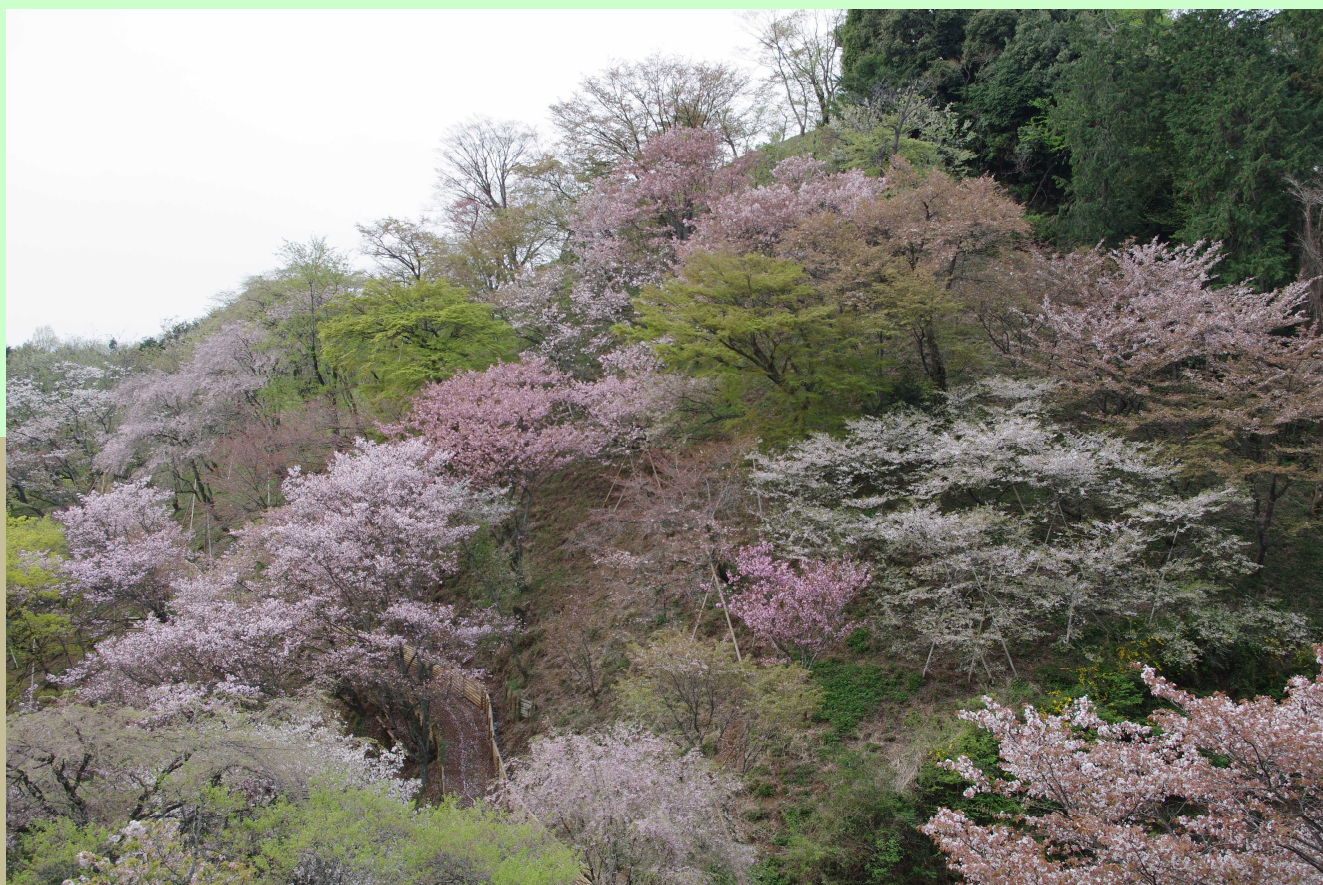




国立研究開発法人 森林研究・整備機構

森林総合研究所 多摩森林科学園

Tama Forest Science Garden



科学園の概要

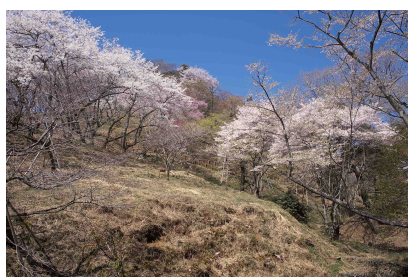
多摩森林科学園は、大正10年2月、宮内省帝室林野管理局林業試験場として発足しました。

現在は、森林・林業・木材産業に関する我が国の中核研究機関である森林総合研究所の支所の一つとして、都市近郊林が有する多面的機能を発揮させるための管理・利用技術の開発や、動植物の多様性保全、サクラの系統保存と利用に関する研究などを行っています。

また、森林総合研究所が蓄積してきた研究成果を基に、広く国民の皆様に森林・林業・木材産業についての理解を深めていただくための普及・広報活動を行うとともに、園内の樹木園・試験林・サクラ保存林等を活用して、研究資料の提供や研鑽の場として大きな役割を果たしています。

なお、サクラ保存林、樹木園については有料による通年公開を行っています。

サクラ保存林・樹木園

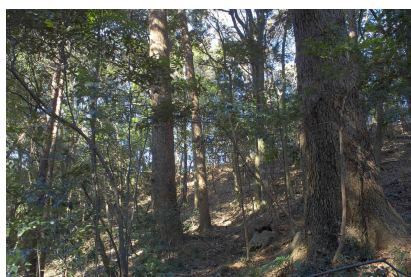


約8haのサクラ保存林には、江戸時代以前から伝わる栽培品種や天然記念物に指定されたサクラのクローンなど、全国各地から集められた約1,800本のサクラが植栽されています。

また、約7haの樹木園には林業用の高木樹種を中心に500種、3,500本の樹木が植栽されています。センペルセコイヤやヤツガタクトウヒなど、他では見ることが少ない貴重な樹種もあります。

サクラ保存林、樹木園は年間を通して一般に公開され、特にサクラの開花時期には多くの人々に喜ばれています。

試験林



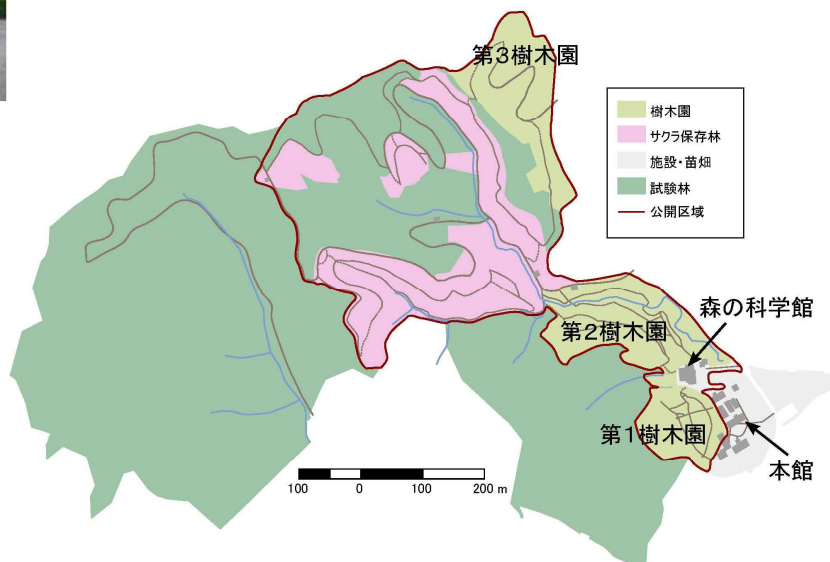
約40haの試験林には天然林も残されており、モミやスダジイ・ウラジロガシなど暖温帯林の常緑樹が優占していますが、ハリギリやカスミザクラなど冷温帯林の落葉樹も見られます。600種以上の植物が自生しており、東京近郊の森林としては自然度が高い状態が保たれています。

見本林はかつてはケヤキやテーダマツなど国内外の林業用樹種の植栽試験地として利用されてきましたが、現在では主に野生動植物を調査および保全する場として利用されています。

森の科学館



管内図



サクラ品種の系統解析や開花情報、また都市近郊林の動植物の生態に関する研究成果などを展示して、森林に親しむための様々な情報を提供しています。

また森林総合研究所の研究トピックスを紹介し、森林・林業への理解を深める場としています。

研究の概要

チーム長(都市近郊林管理担当)

多くの人口を抱える大都市及びその近郊地域に残された都市近郊林は、市民にとって最も身近な森林です。この都市近郊林を、植物の多様性や植生の自然度の視点から評価し、適切な管理のあり方を考えるための研究を行っています。また、研究から得た知見をもとに、現場の実情にあわせた現代的な管理による都市近郊林の保全を提案しています。

チーム長(地域生態系保全担当)

森林は、都市から奥山に至るそれぞれの地域で人間と関わり合い、また、複雑に形づくられる生態系の機能によって社会を広く支えてもいます。私たちは、森林の生き物の構成や関係、またその変化について植物を基盤とした調査・解析を行い、生活に隣接した森林の保全や管理に役立てることを目標にした研究をしています。

教育的資源研究グループ

都市近郊の森林は人間生活と多くの関わりをもって存在しています。都市近郊林では豊かでバランスのとれた生態系を維持することにより、生物多様性を保全し、これを学習の場として活用することが求められています。

そこで、地理情報システム(GIS)や分布予測モデリングを用いて土地利用変化や将来起こりうる温暖化などに対する都市近郊の森林植生や植物の多様性の変化を解明・予測する研究を行っています。

また、都市域に生息する昆虫や野生獣類の変遷を継続調査し、同時に昆虫と微生物の相互作用の多様性やその機能の特徴解明を進め、都市域で行うべき保全および管理手法についての研究を行っています。

サクラについては病害から樹木をまもる管理手法、DNA解析を利用した品種識別、起源推定など遺伝的特性についての研究を進めています。

これらの成果の一部は森の科学館において一般公開しています。さらに、森林とのふれあいを通じて森林への理解を広げるために、教育の場として森林を活用する方法の研究や、森林や林業を学ぶ教育プログラムや教材開発、専門的な人材育成のための専門教育の研究を進めています。



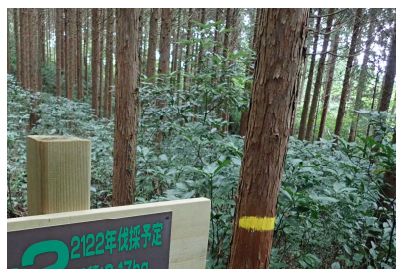
園内に設置した樹木学習教材「森のポスト」



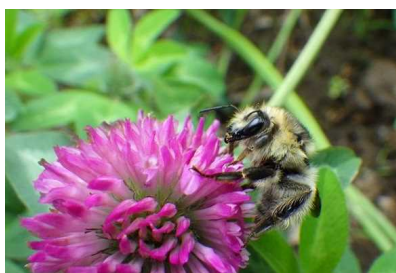
‘染井吉野’に発生したてんぐ巣病



伝統的な管理により維持されている多様性の高い里山林



管理されたヒノキの人工林試験地



アカツメクサを訪れるマルハナバチの一種



都市近郊に生息するムササビは観察会の人気者



DNA解析により、名前は異なるが、よく似たサクラを2タイプに整理

沿革

大正10年 2月 宮内省帝室林野管理局林業試験場として設立。
 昭和15年 1月 帝室林野局東京林業試験場と名称変更。
 昭和22年 4月 林政統一により農林省に移管、林業試験場浅川支場に名称変更。
 昭和32年 7月 林業試験場浅川実験林と名称変更。
 昭和63年10月 森林総合研究所多摩森林科学園に改編・名称変更。
 平成13年 4月 独立行政法人森林総合研究所多摩森林科学園に移行。
 平成27年4月 国立研究開発法人森林総合研究所多摩森林科学園に名称変更
 平成29年4月 国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所多摩森林科学園に名称変更

組織

森林総合研究所（茨城県つくば市）

北海道支所（札幌市）
 東北支所（盛岡市）
 関西支所（京都市）
 四国支所（高知市）
 九州支所（熊本市）

多摩森林科学園

園長

総務課

業務課

チーム長（都市近郊林管理担当）

チーム長（地域生態系保全担当）

教育的資源研究グループ



広報普及

森林講座（年10回程度開催）

森の科学館で森林総合研究所の様々な研究成果をわかりやすく解説しています。

特別観察会（年10回程度開催）

園内を散策しながら、自然を観察する教室です。

園内ガイドツアー

森の案内人が樹木園、サクラ保存林や残された自然林を案内する2時間ほどのガイドツアーです。

園内解説および学習スポット

森の科学館および園内の随時解説の実施、および学習スポット等の案内看板の整備を行っています。



学習スポット
（昆虫）



学習スポット
（ムササビ）



●JR/京王 高尾駅北口から徒歩約10分

国立研究開発法人 森林研究・整備機構

森林総合研究所 多摩森林科学園

とどろ

〒193-0843 東京都八王子市廿里町1833-81

Tel: 042-661-1121 (代表)

Fax: 042-661-5241

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/tmk/>

（見学問い合わせ：Tel: 042-661-0200）

2022.04 改訂

この印刷物は印刷用の紙へのリサイクルが可能です。